

傷を癒したかった

そして

再び銃を執って

戦友と共に戦列に加わろうと思つた

秋の小雨にぬれた野花が

山道に一ぱい咲いていた

然し彼は自分で

思っている以上の重傷だった

多量の出血が

からだ中を硬くさせた――

思う様に足が進まない

彼は這う様にして山道を辿つて

遠くの丘の上に

かすかに浮かぶ灯を見つけた……

彼は根限りの力を出して

その灯のもれる農家に辿りついた

そして助けを求めた